礼拝説教（2024 年２月 25 日）

説教者：中村信哉

イエスとは何者か？

ヨハネの福音書４章 16-26 節

はじめに

今日の聖書箇所は、イエス様とサマリアの女との出会いの出来事が書かれています。イエス様は、ユダヤからガリラヤに向かって旅をしている途中、疲れを覚えてサマリアの**「ヤコブの井戸」**で休んでおられました。そこに一人のサマリアの女が水を汲みに来たので、イエス様は**「わたしに水を飲ませてください」**と話しかけられました。こうして、イエス様とサマリアの女との対話が始まりました。

イエス様は彼女との対話の中で、**「もしあなたが神の賜物を知り、また、水を飲ませてくださいとあなたに言っているのがだれなのかを知っていたら、あなたのほうからその人に求めていたでしょう」**と言われました。彼女はこの時、イエス様が与える「神の賜物」を知りませんでした。また「イエス様が誰なのか」も知りませんでした。イエス様は、彼女との対話が進む中で、イエス様が与える「神の賜物とは何か」「イエス様とは誰なのか」を教えていかれます。

前回学んだ４：1-15 には、イエス様が与える「神の賜物とは何か」ということが書かれていました。イエス様が与える「神の賜物」とは、「生ける水」でした。それは、「聖霊」のことです。聖霊は、私たちの内に住まわれ、私たちに永遠のいのちを与え、私たちに絶えず愛と喜びと平安を注ぎ続けてくださいます。そして、私たちを人格的に造り変えてくださいます。イエス様がこの「生ける水」である「聖霊」について教えられると、彼女はイエス様に、**「その水を私に下さい」**と言いました。

1.　サマリアの女の本当のこと

ではイエス様は彼女に、「それならば」とすぐに「生ける水」を彼女に与えられたでしょうか。イエス様は彼女にこう言われます。**「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」**。イエス様は、彼女に「生ける水」を与える代わりに、「あなたの夫を呼んで来なさい」と言われるのです。すると彼女は、**「私には夫がいません」**と答えます。彼女の年齢が何歳ぐらいだったのか分かりませんが、私たちがもし誰かから「私には夫がいません」と聞いたら、この人は結婚したことのない人なのか、あるいは夫に死別された人なのか、それとも夫と離婚した人なのか、と色々想像します。しかし想像するだけで、それ以上あまり立ち入ったことは聞きません。彼女も、「私には夫がいません」と答えるだけで、なぜ自分には夫がいないのかを説明しようとしません。初対面の、しかもユダヤ人のイエス様に話すことでもないと思ったのでしょう。また自分の苦々しい過去の結婚生活は、できるだけ隠したいと思ったのでしょう。

しかしイエス様は彼女に、こう言われます。**「自分には夫がいない、と言ったのは、そのとおりです。あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました」**。ここで、彼女がどういう人であるのかが、初めて明かされます。しかも彼女の口からではなく、イエス様の口から明かされます。彼女は過去に五人の人と結婚しましたが、すべて結婚生活がうまくいかず、離婚してしまいました。彼女は過去に五回も、結婚と離婚を繰り返したのです。そして現在は、六人目の男性と一緒に暮らし、結婚せずに同棲していました。彼女はイエス様に、「私には夫がいません」と言っただけでした。しかしイエス様は、なぜ彼女には夫がいないのかをすべて知っていて、それを彼女に告げたのです。彼女はイエス様に、過去の結婚生活や現在の男性事情を隠そうとしました。嘘はつきませんでしたが、すべてを話しませんでした。しかしイエス様は、彼女のすべてを知っていたのです。過去の結婚生活も現在の男性事情も。

今日の聖書箇所には、「イエス様とは誰なのか」ということが書かれていますが、まず第一に、イエス様は、私たちのすべてを知っている方であるということが分かります。私たちの過去も現在もすべてを知っておられる方です。私たちの過去の失敗も犯した罪も、受けた傷も苦しみも悲しみもすべて知っておられる方です。私たちはイエス様の前に、何一つ隠すことはできないのです。

2. サマリア人にとっての預言者・キリスト・メシア

彼女は驚いたと思います。自分は何も詳しいことを話していないのに、イエス様は自分の過去も現在もすべてを知っていることに。彼女は思わず、イエス様に**「主よ。あなたは預言者だとお見受けします」**と言います。

サマリア人にとっての「預言者」というのは、「モーセのような預言者」を意味します。サマリア人は、旧約聖書の三十九巻全部を正典としていたのではなく、創世記から申命記までの旧約聖書の最初の五巻、つまり「モーセ五書」と呼ばれる部分だけを正典としていました。ですからサマリア人にとって、「モーセ五書」以外に出てくるエリヤとかイザヤとかエレミヤとかは「預言者」とは考えないのです。申命記 18：18 で、神様はモーセにこう言われました。**「わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのような一人の預言者を起こして、彼の口にわたしのことばを授ける。彼はわたしが命じることすべてを彼らに告げる」**。神様は、イスラエル民の中から「モーセのような預言者」を起こすと言われました。そして神様は、その「モーセのような預言者」に御自身のことばを授け、彼を通してイスラエルの民にすべてを告げると言われるのです。「モーセのような預言者」は、「すべてを告げる」存在でした。

またサマリア人にとって、「キリストと呼ばれるメシア」も「すべてを告げる」存在でした。25 節で彼女はこう言っています。**「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう」**。彼女にとって「キリスト」「メシア」は、「一切のことを知らせてくださる方」なのです。彼女は、自分の過去も現在もすべてを知っていて、それを自分に告げたイエス様を、この方はもしかしたら「す

べてを知り、すべてを告げる」「モーセのような預言者」かもしれない、あるいは「キリスト」「メシア」なのかもしれないと思ったのです。サマリア人にとっての「預言者」「キリスト」「メシア」は、すべてを知っていて、すべてを告げる存在なのです。そのような方が来られることを、サマリア人は待ち望んでいたのです。

3.　<u>まことの礼拝とは？</u>

彼女は、イエス様が「預言者」あるいは「キリスト」「メシア」かもしれないと思った時、それを試すかのように、イエス様に一つの質問をします。それは、**「礼拝すべき場所」**は、**「私たちの先祖のこの山」**か、それとも**「エルサレム」**か、という質問です。サマリア人は、礼拝すべき場所は「先祖の山」である「ゲリジム山」であると考えました。しかしユダヤ人は、礼拝すべき場所は「エルサレム」であると考えたのです。この問題を巡って、サマリア人とユダヤ人は対立していました。そこで彼女はイエス様に、もしあなたが本当に「預言者」であり、「キリスト」「メシア」であるなら、すべてを知っていて、すべてを告げる方であるはずだ、そうであるならば、この問題に決着を付けてほしい、本当に「礼拝すべき場所」はどこなのかを告げてほしいと言うのです。

するとイエス様は、こう答えます。**「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています」**。イエス様はここで、まずサマリア人に対するユダヤ人の優位性を語っています。「救いはユダヤ人から出る」と言われるように、神様はユダヤ人を選び、ユダヤ人を通して全世界に救いをもたらそうとしておられます。それゆえ神様は、ユダヤ人に三十九巻の旧約聖書を与えられました。その中に、神様はどのような方で、どこで、どのように礼拝すべきかが書かれています。しかしサマリア人は、「モーセ五書」しか持っていません。その意味で、神様についての知識も、礼拝についての知識も不十分なのです。それゆえサマリア人は、「知らないで礼拝している」のです。

ではイエス様は、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われるのでしょうか。そうではありません。イエス様は、サマリア人に対するユダヤ人の優位性を語りながらも、今はゲリジム山でもエルサレムでもない所で、神様を礼拝する時が「来ている」と言われるのです。

では、今はどのような礼拝が求められているのでしょうか。23-24 節で、イエス様はこう言われます。**「しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません」**。今は、御霊と真理によって、神様を父として礼拝することが求められています。これが、「まことの礼拝」です。「まことの礼拝」は、ゲリジム山やエルサレムなど場所に縛られるものではありません。

イエス様は、「まことの礼拝」について語り始める時、「わたしを信じなさい」と言われます。つまり、イエス様を信じることから、「まことの礼拝」が始まっていくのです。イエス

様は、ヨハネ 14：6 でこう言われます。**「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」**。イエス様は、「真理」です。イエス様を信じる時に、私たちは神様の子どもとされ、神様を「父」と呼ぶことができます。「まことの礼拝」は、「御霊」と「真理」によって、「父」を礼拝することです。「真理」であるイエス様を信じる時に、私たちは神様を「父」として礼拝することができます。

　また私たちは、イエス様を信じる時に「御霊」、つまり「聖霊」を与えられます。イエス様は、ヨハネ 7：37-39 でこう言われました。**「『だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。』イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである」**。イエス様はここで、「わたしを信じる者は・・・生ける水の川が流れ出るようになる」と言われます。「神の賜物」である「生ける水」は、イエス様を信じる時に、私たちに与えられるのです。その「生ける水」とは、「聖霊」のことでした。聖霊は、私たちを新しく生まれさせます。私たちを神様の子どもとして、新しく生まれさせます。そして神様を「父」と呼ばせてくださるのです。

　「まことの礼拝」は、イエス様を信じることから始まります。「真理」であるイエス様を信じることにより、「聖霊」を与えられ、神様を「父」と呼んで礼拝すること、これこそ、御霊と真理によって、父を礼拝する「まことの礼拝」です。

　イエス様は彼女に、「まことの礼拝」とはどんな礼拝なのか、神様が私たちに求めておられる礼拝とはどんな礼拝なのかを教えられました。イエス様は御自身が、すべてを知っていて、すべてを告げる「預言者」あるいは「キリスト」「メシア」であることを、彼女に示されたのです。そして 26 節で、彼女に向かって**「あなたと話しているこのわたしがそれです」**と、御自身が「キリスト」「メシア」であると宣言されたのです。

<u>おわりに</u>

　サマリア人は、「ゲリジム山」で礼拝しました。ユダヤ人は「エルサレム」で礼拝しました。では、私たち日本人は、どこで、誰を礼拝しているのでしょうか。多くの日本人は、「神社」で、様々な神々を礼拝しています。天照大神やその子どもと呼ばれる様々な神々を拝みます。また歴史に名を残した偉人たちも、神々として礼拝します。戦時中は、天皇を神として礼拝していたこともあります。また自分たちの先祖を、自分たちの家の仏壇で礼拝することもあります。また日本人は、人が神となるだけでなく、山や海などの自然も神とされます。それゆえ、自然を礼拝することもあります。私たち日本人には、神について、また礼拝について教える正典はありません。多くの日本人は、誰を礼拝しているのかを知りません。どのように礼拝すべきかも知りません。まさに私たち日本人は、サマリア人と同じで「知らないで礼拝している」のです。

　私たち日本人には、すべてを知っていて、すべてを告げる「キリスト」「メシア」が必要です。「まことの神」とはどのような方なのか、「まことの礼拝」とはどのようなものなのか

を教える「キリスト」「メシア」が必要です。その「キリスト」「メシア」とは、「真理」であるイエス様です。イエス様は、私たちのすべてを知っておられます。私たちの過去の失敗も犯した罪も、受けた傷も苦しみも悲しみもすべて知っておられます。私たちはイエス様の前に、何一つ隠すことはできません。またイエス様は、「まことの神」はどのような方なのか、「まことの礼拝」とはどのようなものなのかをすべて知っておられます。イエス様は、「わたしを信じなさい」と言われます。イエス様を信じる時に、私たちは「生ける水」である「聖霊」を与えられ、愛と喜びと平安を絶えず注がれます。また新しく神様の子どもとして生まれ変わり、人格的にも絶えず造り変えられ、まことの神様を「父」と呼ぶ「まことの礼拝」へと導かれていきます。どうか今日、ここにいる一人ひとりが、「わたしを信じなさい」というイエス様の招きのことばに応えることができますように。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、「まことの神」や「まことの礼拝」を知らないで歩んできました。それゆえ多くの失敗や罪を犯してきました。しかしあなたが遣わされたイエス様は、すべてを知っておられる方です。イエス様の前に、私たちは何一つ隠すことはできません。私たちのすべてを知っているイエス様が、「わたしを信じなさい」と「まことの神」のもとへ、また「まことの礼拝」へと招いてくださっています。どうか、あなたにすべて委ねますので、私たちに「生ける水」を与え、神様を「父」と呼ぶ「まことの礼拝」へと導いてください。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。